

設問1

医療安全対策の基本姿勢として事故の起きにくいシステムを作る必要がある。次の中で誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	指さし、声出し確認、ダブルチェックを行う。
A2	正確な指示・伝達を行い、業務の範囲・責任を明確にしておく。
A3	医療スタッフ間の情報伝達と良好なコミュニケーションが重要。
A4	自らの健康管理に留意する。
A5	4Sは安全確保の基本(患者療養環境・医療者環境)。

正解 A5

5S 整理・整頓・清掃・清潔・しつけ

設問2

急性肺血栓塞栓症の早期発見・早期診断として誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	呼吸困難
A2	胸痛
A3	血圧上昇
A4	頻脈
A5	頻呼吸

正解 A3

血圧低下やショックで発症することもある。

設問3

VTE評価・再評価の時期について望ましい時期で、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	入院時(手術前)
A2	手術後
A3	47時間以上の長期臥床時
A4	リハビリ開始後1週間
A5	退院時

正解 A5

リハビリ処方時の再評価は必須。リハビリ退院時にあえて行うことはない。

設問4

患者移動や体位変換時の気管挿管チューブ・気管切開チューブの誤抜去防止として、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	体位変換前の固定状態を確認する。
A2	体位変換は3名以上で行い、役割を決め、声掛けをしながら行う。
A3	人工呼吸器回路や接続器具を保持し、過度の張力がかからないようにする。
A4	気管切開チューブの固定位置がずれないように目視する。
A5	体位変換後は患者の状態やチューブの固定、呼吸回路の異常がないか確認する。

正解 A4

気管切開チューブの左右のフランジ部分を手で押さえて固定位置がずれないようにする。

設問5

除法伝達ルールの一つにISBAR(アイエスバー)がある。次に示すISBARとして誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	I: Identify(報告者・退所者の同定)
A2	S: Safety(患者の安全)
A3	B: Background(背景)
A4	A: Assessment(考察)
A5	R: Recommendation(提案)

正解 A2

S: Situation(状況)。重要性・緊急性を伝えるため、状況報告する際に、状況・背景・考察・提案に分けて伝達する方法である。